

バイオスパーキング工法

ベンゼン及び油汚染土壌を微生物の力で分解・無害化する工法です。

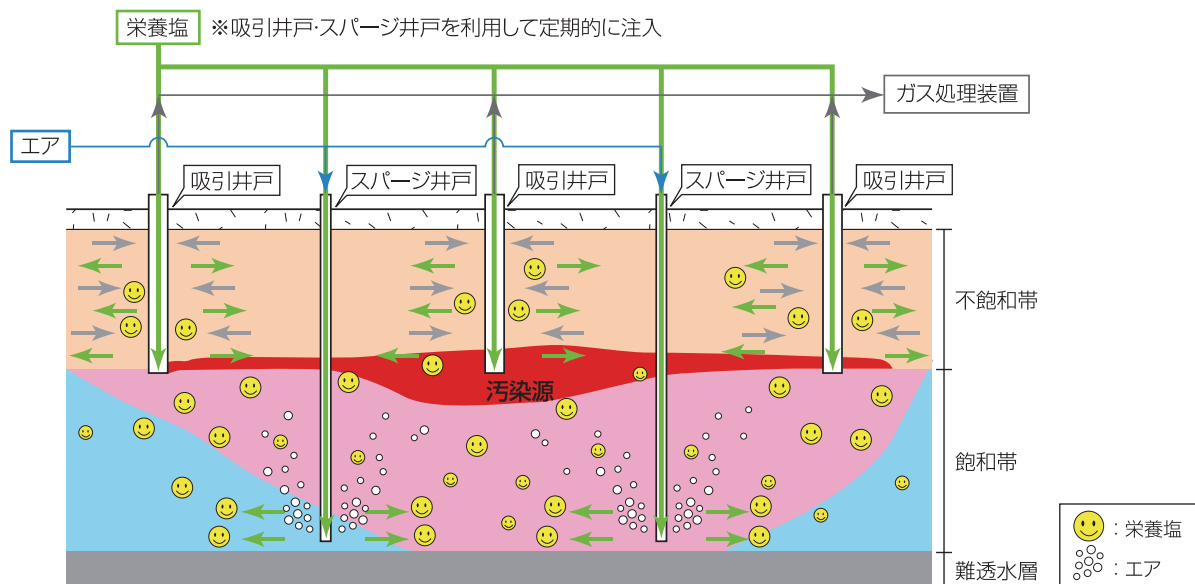
概要

揮発・回収

- 飽和帯(地下水)に空気を圧入(スパーキング)して、有害物質の揮発を促します。
- 揮発した汚染ガスは不飽和帯に設置した吸引井戸を介し、土壌ガス吸引により回収し、ガス処理装置にて無害化します。

分解・無害化

- 吸引井戸、スパージ井戸を利用して、定期的に栄養塩や促進剤を加えることにより微生物を活性化し、生物学的に汚染物質を分解(バイオレメディエーション)します。



実施例

[汚染物質] ベンゼン
[浄化対象面積及び深度] 約 14,700 m²、GL -0~-20m



栄養塩・促進剤注入装置



ガス処理装置(触媒酸化装置)